

社会医療法人 清風会
法人だより

清風

冬号 vol.62
2019年1月1日



ユニフォームが新しくなりました
(五日市記念病院/新館外来待合)



社会医療法人 清風会



五日市記念病院・廿日市記念病院は
(公財)日本医療機能評価機構の認定病院です

〈新春を迎えて〉今なすべき課題について:その7

3テスラMRI導入と増築について

社会医療法人 清風会

理事長 梶原 四郎



はじめに

平成3年(1991年)7月の五日市記念病院(脳神経外科を中心に救急医療を担う)の開設、平成10年(1998年)10月の医療法人化、介護保険制度の発足に合わせた平成12年(2000年)6月の廿日市記念病院(リハビリテーションを中心に緩和ケアを併せて担う)の開設、平成29年(2017年)10月の社会医療法人化と、過去27年半を経て目標とする法人の形態が出来上がりつつあります。

企業を左右するのは人、物、金と言われ、いずれが欠けてもスムーズな運営が出来ません。法人の形態が出来上がりつつあるとは言え、未だに課題は尽きることがありません。

今回は近々に予定されている3テスラMRIの導入と、それに伴う増築および併せて設備される事項について述べてみたいと思います。

充実した検査機器は診療の基本

開設以来、理念である「地域に望まれる医療」の実践をしていくために、「検査は診療の基本である」との考えでより良い検査機器を導入してきました。五日市記念病院の開設時からの当時の最先端のMRIとCTを始めとする機器の導入は、「95床の個人病院でありながら、頭でっかちではないか」との声も聞こえてきましたが、脳動脈瘤を始めとする脳疾患の手術をするためには基幹病院と同等の治療を提供する必要があり、妥協することは出来ませんでした。お陰で無縁の地である佐伯区でありながら、当初から動脈瘤を始めとする多くの手術をさせて頂けたことは、地域の皆さんから評価をされた

ためと思われます。

以後も同様な考えの下、五日市記念病院では平成22年(2010年)7月に基幹病院に先んじて320列CTを導入し、平成26年(2014年)4月には血管撮影室を拡充して、脳血管撮影のみならず冠動脈撮影を可能にするパイプラインの血管陰影装置を設置しました。

320列CTは一度のスキャンを0.35秒の超高速で行うことが出来、かつ16cm幅を撮影出来ることにより、脳神経外科領域においては金属クリップを使用した脳動脈瘤術後の頭部CTA(血管撮影)を行うことが出来るようになり、合併症を恐れながら術後の脳血管撮影を行ってきた脳神経外科医のストレスを軽減させることが出来る様になりました。超高速で検査が出来るために脳循環動態を3次元だけでなく時間軸(4次元)で撮影出来る様になり、動静脈奇形の治療法を決めるための一助にもなっています。循環器領域においては一度のスキャンで冠動脈撮影を行うことが出来るため、造影剤の使用量を少なくすると同時に画像の合成をする必要がなく、脳血管障害と合併することの多い冠動脈狭窄を外来レベルで診断することにより、全身の血管障害の治療が可能となりました。加えて、内科領域においても内視鏡を使わずに大腸検査が出来る様になり、侵襲の軽減は大腸疾患の早期発見に寄与しています。

また、従来の血管撮影はCTやMRIによって代行される様になり、検査と言うよりも治療行為へと変わって来ました。血管撮影室を拡充して血管内治療室にすることによって、急速に進歩してきた血管内治療がスムーズに行える様になり、頸動脈狭窄の拡張・ステント留置術や脳動脈瘤へのコイル塞栓術のみならず、急性期の脳動脈内血栓除去術などの幅広

い治療が出来る様になっています。

一方、廿日市記念病院でもリハビリテーションを中心とする慢性期の病院でありながら、1.5テスラMRIと16列CTを設備し、院内で発生することのある新鮮な脳梗塞を見逃すことなく対応しています。

■ 3テスラMRIの導入

平成23年(2011年)8月に現在使用中の1.5テスラMRIを導入する際、既存機種と同レベルのMRIと交換するか、3テスラMRIにグレードアップをするか迷いましたが、当時の3テスラMRIは未だ発展途上機種と判断し、次回の交換時に導入することにしました。

しかし、医療機器は日進月歩で進化しており、昨今のMRIの必要度と検査能力を考えると、五日市記念病院に於いては1.5テスラMRIでは診療ニーズに応えることが出来なくなってきたと判断され、加えて診療現場からの要請もあり、2台目として3テスラMRIを導入することにしました。

■ 増築と検査室および研修室の拡張

2台目のMRIの導入を決めたものの設置する場所がなく思案をしていましたところ、幸運にも空き家になっていた病院の南側の土地を入手することが出来たため、増築をすることが可能になりました。増築が出来るとなると、手狭になった一般検査を拡充したい、500人を超す職員に対しては窮屈になった管理棟3階の研修室(95㎡、約70人収容)も広げたい、実習生や同伴する教官のための部屋も広げたい、病棟の一部を補充したいなど、種々の要望が出てきました。

しかし、全ての要望に応えることは出来ませんので、まずは主な目的である3テスラMRIの導入と先行投資でもある職員の研修室を現在の2倍に拡充し、次いで一般検査室を拡充して救急診療が今以上にスムーズに行えることに主眼を置くこととしました。とは言え、引き続き厳しくなる医療情勢の中を180床のケア・ミックス病院として存続させるために、施設を充実出来る増築のチャンスは滅多にある訳ではありません。負債を重ねることになりますが、残存する容積率を一杯に使用して可能な限り要望に応えることにしました。

95床でスタートした五日市記念病院は、120床、180床へと増築によって規模を拡大すると共に、脳血管障害を中心とする急性期からリハビリテーションを一貫して可能とする病院へと成長してきました。過去2度の大がかりな増築は理事長を中心としたトップダウンの設計でしたが、今回3度目を迎える増築については社会医療法人となった最初の増築であり、関係部署がしっかり意見を出し合ったボトムアップの設

計による増築として、2019年7月の開設記念日の竣工を目指して欲しいと思います。

■ おわりに

船で川下りをしようとする流れに沿って対応をしていかないと、途中で転覆して目的の河口まで到達することは出来ません。同様に世の中は川の流れの如く動いており、常に状況を判断して対応していかないと取り残されてしまいます。正しい状況判断をするためには、スマートフォン、タブレットやテレビからの情報のみならず複数の新聞などを介して、正確な情報を知る必要があります。

世界は2年前に就任したアメリカのトランプ大統領を中心に「自国本位」の政策を掲げ、同様な考えはフィリピン、ブラジル大統領と広がり、更にはヨーロッパ諸国にまで広がろうとし、人々は上か下か、右か左かに二分されようとしています。

一方、日本では長期の安倍政権が忖度を生み、清廉潔白であるべき政治家や官僚に嘘が横行し、目先の人気取りに終始して次世代が背負わなければならない多額の財政赤字への対応は、後回しにされ続けています。更に、少子高齢化の波はポディープロウの如く次第に影響を出し始め、介護職を中心に多方面に亘って人材不足が表面化しつつあります。加えて、社会保障費の削減が叫ばれる中で必然的に医療・介護費用は削減されることが予想され、医療機関は益々厳しい環境に置かれることは必定です。

しかし、我々の法人は猫の目行政に惑わされることなく、正論を以て理念を実践していかねばなりません。

自己研鑽を怠らず、法人の実情と進むべき方向を理解し、ワークライフバランスを保ちつつ、夢が持てる社会医療法人へと発展させて欲しいと願っています。



平成22年(2010年)、五日市記念病院に導入した320列CT

清風会病院のユニフォームが新しくなりました！

— たかがユニフォーム、されどユニフォーム —

五日市記念病院 院長 ^{むかだ}向田 一敏



平 成の代も余すところあと4ヶ月となりました。五日市記念病院は平成3年7月に開院して以来、平成の代と共に歩んで来ただけに、平成が終わるのは何やら寂しく感じる反面、5月1日からの新元号が如何なるものになるのか、楽しみな思いもあります。

新しい御代の到来を予想した訳ではありませんが、当法人では五日市記念病院、廿日市記念病院ともに、昨年12月に全職員のユニフォームを更新しました。車に例えれば、マイナーチェンジではなく、メジャーチェンジと言えます。これまでの“医療職は白衣”の常識を捨て、スクラブを主体とした動き易いものになりました。新ユニフォームの導入にあたっては、全体的な基本原則を取り決めた後、数多くの種類の中から各部門で相談し、形態や色を選択しました。救急医療などをテーマにしたTV番組をたまに垣間見ることがありますが、最近では若い、格好いい俳優さんが着ているユニフォームはスクラブが多く、私が若かりし頃に見た“白い巨塔”や“ベン・ケーシー”に出て来たような白衣が医療職のユニフォームであると考えるのは今や文化遺産的な見方であると、2年前に札幌から赴任してきた坪井医師（現診療部長）に指摘されました。

確か十数年以上も前になりますか、医師がスクラブを着て日常の診療をするのを、少なくともこの近辺で見ることがなかった頃、大学病院から当直勤務に来てくれていた非常勤の若い医師がスクラブを着ていました。それをどこかで見かけたのでしょうか、その翌日、梶原理事長（当時は院長）が、“おい向田、タベの当直が手術着（スクラブ）を来て仕事しよったが、あれどう思うか？”と問いかけられました。梶原先生がそういう言われ方をする時は、まず間違いなく否定的な見解を持たれていることを私は直感しました。当直医が着ていたスクラブは、背中に病院名のロゴが派手派手しく入っていたので手術着でないことは明らかでした。しかし、当時の我々の頭の中は、緊急の時以外は白衣に着替えて診療する、手術着でそのまま診療するのは、見た目も悪く、患者さんに対して失礼である、という基本的概念がありましたので、“今度からは、長白衣を上羽織ってもらうように

注意しておきましょう”と、その場をやり過ごした記憶があります。今から思えば、その時の当直医は、当時流行り始めたスクラブという医療ユニフォームをいち早く取り入れたのだと思います。

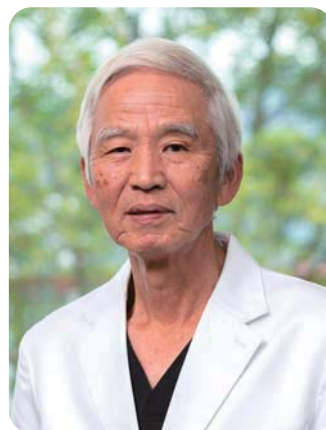
そういった経緯が私の記憶に残っていたので、今回の新ユニフォームの選定にあたり、積極的にスクラブの導入を唱えた坪井医師に対して、“そりゃまずいよ、天の声が下るんじゃないの？”と言ったところ、彼から“先生、そりゃもう古いですよ。今時、そんなもんじゃないですー”と一笑されたのです。その後、私なりに色々と情報収集した結果、実用性、機能性の高さ、清潔維持（クリーニング）の簡便さや効率性の良さなどから、今回のスクラブ主体の更新に至りました。スクラブ（scrub）の意味は、「ごしごし洗う」ということだそうで、外科系の医師は以前から手術着として使用しています。度々更衣して、ごしごし洗濯するに耐え得るものですので、清潔維持に心掛け、ユニフォームに関連したルールも遵守するようにお願いします。

奇しくも新しい御代が始まろうとする年に、新たなユニフォームを着て仕事をする事になりました。ユニフォーム一つ一つを見れば、ただの作業服ですので個人個人の好みで着易いものを選べばよいのですが、集団となればそうはいきません。ユニフォームの意味は、個人の自由意志によらず、制度によって規制された集団の統一的衣服ということで、その集団の意識的統一を図ることや患者さんなど部外の人達に対しての集団の組織力のアピールにも繋がります。“たかがユニフォーム、されどユニフォーム”です。この機会に、チームとしての協力、団結をより強くし、医療内容も改善、向上させることを常に念頭に置き、日々の業務に精進して頂きたいと願います。

最後になりましたが、ユニフォーム更新にあたっては、私のような化石的脳みそを持つ者も居る中、基本理念を守りつつ法人全体の意見を統一し、雑多な更新作業を無事遂行してくれた法人管理本部や協力して頂いた方々に対して謝意を表したいと思います。ご苦勞様でした。

災害時の 医療機関の「備え」

廿日市記念病院 院長 浅野 拓



平 成31年の新たな年を迎えましたが、5月に新元号になると、いささか“昭和も遠くになりけり”の感があります。近年の大規模災害（平成7年の阪神淡路大震災、平成23年の東日本大震災）で、これから先も南海トラフ大地震による太平洋側の広範囲の震源域が想定され、益々不安がつのっている今日この頃です。

昨年の西日本の豪雨災害に関しても、備えたマニュアルやBCP（Business Continuity Plan＝事業継続計画）が想定外のため、方々でお手上げだったという事も多く聞きました。

西日本の豪雨災害後間もなく、広島大学における大規模災害に向けての取り組みで、防災研究組織「広島大学 防災・減災 研究センター」が開設され、豪雨による土石流、洪水、氾濫などの複合的要因により被害が拡大する相乗型豪雨災害に備え、国、自治体、企業とも連携して取り組む体制でこれからの機能も期待されています。

一方、地震に対し耐震「建築基準法に基づき、震度6強～7程度の地震でも、倒壊・崩壊の恐れのない基準、柱、壁などの骨組みの強度を高め地震時の振動を建物全体で吸収できる構造」を求められ、さらに、耐震基準を満たしていても亀裂、機器が倒れる恐れがあるので、より安全性能を求めて、免震（地下に装置を設けて、振動が建物に伝わりにくい構造）、制振（各階に装置を配置して、風や地震の力を吸収し揺れを低減させる構造）の取入れが叫ばれた途端、某企業による免震、制振用オイルダンパーのデータ改ざんに端を発し、国民の不信感も増強している現状です。

そこで以上のことを念頭に置き、当院の設備を改めてチェックしてみました。

建物は耐震・耐火構造であり、行政の公開する地震防災マップ（揺れ・液状化危険度・建物被害）では被害危険度は低い位置に建築されています。近くに河川がなく浸水の危険性はないものの、土砂災害ハザードマップによると、北側斜面のがけ崩れによる被害が想定されていました。

施設の防災体制は法定点検に加えて、日常点検を定期的に行い、院内の主要設備（自家発電装置、医療ガス設備、防火設備、給水設備）が稼働できる体制はできており、また、職員による防災訓練（昼間および夜間想定）の他、災害派遣チームを編成して、災害時の医療支援体制も整えました。

当院は災害拠点病院ではありませんが、広域災害を想定した医療対応の訓練企画と併せて、医薬品・医療材料や食料などの備蓄（現在は3日分相当）も確認しており、地域の災害時対応に貢献できるように努めたいと考えておりますが、願わくば『活動せずにすむように』あって欲しいものです。



明けましておめでとうございます

五日市記念病院 副院長 ^{ちやき}茶木 隆寛



ま た新たな年を迎えました。新たな年を迎えることが出来たと記すべきかもしれません。この原稿を書こうとしている時に脳幹出血の患者が救急搬送されてきました。そのまま救急外来で亡くなりました。年齢は63才でした。私と同年でした。自らの年齢を自覚させられると共に、医療に従事していても色々な疾患を他人事にとらえている自分を自覚しました。もちろん体調や疲れ具合等で年齢を感じることは多くはなっているのですが、命にかかわるような病気については考えたくないということもあり、

他人事ととらえている現状です。しかし今回のことで自分にも急病の可能性があり、もちろん急死の可能性もあり得るのだと考えさせられました。巷では身の回りの整理を行い、出来るだけ持ち物を減らし、人生の終わりに備えなさいと言われますが……。突然の終わりには対処は難しそうです。年の初めにふさわしくない話題とは思いますが、年の初めだからこそ、人生の終わりについて色々と考えてみるのも必要なと思うこの頃です。

本年もよろしくお願いいたします。

新しい年に当たり 気持ちを新たに

五日市記念病院 副院長 土井 謙司



新 年明けましておめでとうございます。
昨年は広島カープがみごとにセ・リーグ3連覇を果たしましたが、残念ながら日本シリーズでは、パ・リーグCSを勝ち抜いたソフトバンクに敗れてしまいました。ストレスフルな毎日から解放されたことを喜ぶべきか、退屈なストー

ブリーグ突入を嘆くべきかはわかりませんが、新しい球春を待ちましょう。昨年の中村に続いて、今年のドラフトでは小園を引き当て、期待に胸を膨らませています。

当院にも新戦力が加わり、新しい年に当たり気持ちを新たにしています。本年もよろしくお願いいたします。

高齢化社会と車

廿日市記念病院 副院長 ^{ばんしょうだに}番匠谷 孝廣



先 日、80歳を超えた高齢の女性が、阿品台から、ご主人の入院先の陽光台にある当院まで、車で毎日、見舞いに来られていると聞き、全く驚きました。よく聞いてみると、案の定、最近、事故をよく起こしているとのことでした。「車に乗るのは、もうやめてください。他の人の迷惑になりますよ。」ときつく言いましたところ、翌日から車の運転をやめられたとのことでした。車の自動運転化が叫ばれて、数

年が経ちますが、完全自動化には少なくとももう5年間はかかりそうです。完全自動化すれば「免許証返納」をしなくても、どこへでもお出かけできるし、「飲酒運転事故」も全くなくなると考えたりしますが、この身勝手な考えをするのは、車好きの私一人でしょうか。免許証を持たなくても運転できる、飲酒をしていても運転できる、早くこういう時代が来ればいいのと思う今日この頃です。

新年度のご挨拶

看護部長 安達 貴枝



新しい年を迎えるにあたり、一年を振り返るといろいろな出来事が浮かんできました。

中でも、昨年7月の豪雨災害により広島県内各地では、甚大な被害を受けました。記録的な豪雨により、亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災されました皆様に対してこの場をお借りして心よりお見舞い申し上げます。災害より半年過ぎましたが、少しずつでも復旧の目途がついていらっしゃるでしょうか。雨や台風が来るたびにそのときの事が思い出され、脳裏から離れません。

清風会看護部におきましては、広島県看護協会からの災害支援ナース派遣要請に基づき3名の看護師を派遣する事ができました。少しでも皆様のお役にたつことができたのではと思っています。

今回の災害を教訓として、日頃から、いつ何が起こっても対応できるように院内マニュアルの整備を行い、体制を整えておくという事を改めて思い知りました。

看護部では、昨年度入職された皆さんは、夜間勤務も少しずつ増え、日々大変な思いをしながら先輩看護師と共に今日までがんばってくれています。

脳卒中専門病院として、脳神経外科の手術件数も増え、毎日手術・血管治療等の連続で先生方には大変重労働をおかけしていると思いますと共に、患者さん・ご家族を支えてくれています全スタッフにも感謝でいっぱいです。

昨年、4月1日より、療養病棟では入院基本料が1に変更になりました。区分2・3の患者さんが90%と重症が増え、看護、介護をはじめリハビリスタッフの皆さんの力を借り、看護部理念でもあります、「信頼される看護を提供する」ために、思いやりのある寄り添う気持ち、笑顔で協力し合う気持ちで日々患者さんの安全を一番に考えながら、看護実践を行っています。

また、回復期病棟においては、2病棟の一方、新館回復期

リハビリテーション病棟が8月1日より入院基本料1に、本館回復期リハビリテーション病棟も11月より入院基本料1となりました。多くの専門職者が協働して集中的なリハビリを実施し、心身ともに回復した状態で自宅や社会に戻って頂くためにも他職種によるチーム医療を今以上に実践したいと思います。

2025年には超高齢化をむかえ、地域包括ケアシステムの構築が進み、医療・介護サービスの提供体制は、施設から地域・在宅へと移行していきます。多職種多領域からの人的資源のコーディネートや協働ケアワークが進む中、看護職のケア推進能力も高めていく事が課題と思います。認定看護師は勿論、特定行為研修制度にも目を向けていきたいと思います。

近隣の病院・施設の皆さんとは今まで以上に密に連携をとりながら、しっかり手を結び、病院から在宅へと患者さんに心から喜んで頂けるよう役割を果たして参りたいと思います。

今年もよろしくお願いいたします。



01 | 4年目研修に参加して

清風TOPICS

廿日市記念病院 リハビリ技術科 石本 菜都美

9月29・30日に4年目研修に参加させて頂きました。研修では国指定天然記念物である野島断層が保存してある北淡震災記念公園・大塚国際美術館を見学しました。北淡震災記念公園では兵庫県南部地震で出現した野島断層の展示や震度7の地震を実際に体験するブースもありました。震度7という大きな地震を体験するのは初めてで、時計が揺れガタガタとなる音には恐怖を感じました。また、断層の断面を間近で拝見し、地震の脅威や凄まじさを感じる事が出来ました。

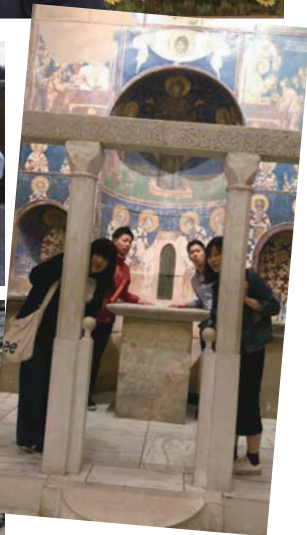
今回の研修では、入職研修以来、顔を合わせる事がなかった同期とも顔を合わせる機会となりました。また、食事の席や記念館・美術館の見学を通して、学びを深めながらも食事の席では様々な話をする事ができ、より親睦を深める事が出来ました。次年度も新しく職員が入職する為、5年目として後輩の見本となる存在になり、後輩が困っている時にはこちらから気づいてあげられるように周りにも気を配りながら責任感を持ち行動していきたいと思います。



大塚国際美術館では、
陶板で再現された
世界の名画を鑑賞！



北淡震災記念公園で、
震度7の地震を体験



02 | 忘年会開催

清風TOPICS

司会を担当しました



五日市記念病院 臨床栄養管理科 烏田 有実 (写真左)

忘年会では、緊張した仕事現場では見ることの出来ない皆さんの素敵な表情が、1年が充実した年であったのだということを表していました。今回は5組に余興を務めて頂きました。どのグループも工夫を凝らした演出で、とても惹き付けられ、会場は笑顔であふれていました。私自身、1年前の余興に参加させて頂いたことを懐かしく思い、月日の経つ早さを実感しました。新たな気持ちで新年を迎え、善良な意思を持ち業務に励みたいと思います。

拙い司会ではありましたが、誰しもが経験できる事ではない役割を任せて頂いたことを幸運に思い、無事に会を終えることが出来たことに感謝いたします。ありがとうございました。

五日市記念病院 リハビリ技術科 内田 幸穂 (写真右)

この度、忘年会で司会を務めさせて頂きました。決まった時は「私に務まるのか」と不安でしたが、上司や同期から「大丈夫。出来るよ。」と激励の言葉を頂き、本番に臨みました。忘年会の開始時は緊張で手が震えていましたが、事前練習よりもミスが少なく、落ち着いて進行することが出来ました。

毎年恒例の余興では後輩たちが盛り上げてくれ、皆で楽しませてもらいました。「1年前、私たちも業務後にダンスの練習をしたな。」と懐かしく、1年経過した早さを実感しました。

会が終わった後、たくさんの方々から「お疲れ様。」と声を掛けて頂き安心しました。多くのスタッフの方々をサポートしてくださり、無事に司会という貴重な経験をさせて頂くことが出来ました。この経験を自信に変えて、今後の業務に取り組んでいこうと思います。

カンパイ！



景品めざして
ジャンケンポン！

今年も
お疲れさまでした

平成30年 学会発表実績

【海外】

開催日	学会名	発表場所	演題	配属	部署	科	氏名
6月9日	Asia spine 2018	台湾 台北	Anterior cervical foraminotomy as a treatment for cervical radiculopathy due to foraminal stenosis	五日市	診療部	脳神経外科	梶原洋介

【全国】

開催日	学会名	発表場所	演題	配属	部署	科	氏名
1月21日	第2回 日本安全運転医療研究会	東京都	当院自動車運転支援プログラムを用いてトラックドライバーへの復職を果たした症例	廿日市	技術部	リハビリ技術科	原田絢斗
2月2日	回復期リハビリテーション病棟協会 第31回研究大会	岩手県	在宅医療従事者を対象とした病院薬剤師との連携に関するアンケート調査	五日市	技術部	臨床薬剤科	荒川隆之
2月2日	回復期リハビリテーション病棟協会 第31回研究大会	岩手県	退院目標を意識したカンファレンス運営の効果	五日市	技術部	リハビリ技術科	島田大資
2月2日	回復期リハビリテーション病棟協会 第31回研究大会	岩手県	当院における外出訓練の実施状況と今後の課題	廿日市	技術部	リハビリ技術科	太田未起
2月2日	回復期リハビリテーション病棟協会 第31回研究大会	岩手県	バスに乗れていると思っていたのに～退院後のバス利用に向けて外出訓練を実施した患者の追跡調査～	廿日市	技術部	リハビリ技術科	山崎智博
3月15日	第43回 日本脳卒中学会学術集会	福岡県	破裂脳動脈瘤の外科治療の本来の意義～症候性脳血管攣縮ZEROを目指して～	五日市	診療部	脳神経外科	坪井俊之
3月15日	第43回 日本脳卒中学会学術集会	福岡県	視床拘束を継続したメトロニダゾール誘発性脳症の一例	廿日市	診療部	脳神経外科	高柿尚始
4月7日	第85回 日本脳神経外科学会 中国四国支部会	岡山県	Anterior temporal approach の有用性とその応用～ Retro-carotid space 確保のための Intra/Extra dural temporopolar approach	五日市	診療部	脳神経外科	坪井俊之
4月13日	第27回 脳神経外科手術と機器学会	奈良県	破裂脳動脈瘤の直達術～ interhemispheric approach における術中破裂の troubleshooting、その予防とneck laceration時の対応	五日市	診療部	脳神経外科	坪井俊之
4月26日	第29回 日本心エコー図学会学術集会	岩手県	可動性左心耳血栓の消退を、TTE・TEE・MDCTにて観察できた無症候性心原性脳塞栓の1例	五日市	診療部	循環器内科	湯谷 剛
5月25日	第12回 日本緩和医療薬学会	東京都	緩和ケア病棟入院前における療養場所別医療用麻薬処方状況調査	廿日市	技術部	臨床薬剤科	秋本 伸
6月28日	第55回 日本リハビリテーション医学会学術大会	福岡県	進行性核上性麻痺の嚥下障害に対する工夫	廿日市	診療部	脳神経外科	高柿尚始
7月21日	第123回 UCG談話会	大阪府	著名な左室肥大を呈したうつ血性心不全をきたした超高齢者の1例	五日市	診療部	循環器内科	湯谷 剛
9月8日	第24回 日本摂食嚥下 リハビリテーション学会学術大会	宮城県	完全側臥位法導入中に嚥下機能の低下を認めた一症例について	廿日市	技術部	リハビリ技術科	内藤智昭
9月28日	第32回 中国四国脳腫瘍研究会	山口県	後頭蓋窩髄膜腫の開頭摘出術～腫瘍の発生部位に応じた手術戦略の検討～	五日市	診療部	脳神経外科	坪井俊之
9月29日	第20回 中国四国脳卒中研究会	山口県	破裂脳動脈瘤の外科治療の本来の意義～症候性脳血管攣縮ZEROを目指して～	五日市	診療部	脳神経外科	坪井俊之
10月3日	リハビリテーションケア 合同研究大会2018	鳥取県	当院の転倒件数減少に対する取り組みについて～ピクトグラムの運用を開始して～	廿日市	技術部	リハビリ技術科	伊藤麻里菜
10月10日	第77回 日本脳神経外科学会学術総会	宮城県	破裂脳動脈瘤の外科治療の本来の意義～症候性脳血管攣縮ZEROを目指して～	五日市	診療部	脳神経外科	坪井俊之

開催日	学会名	発表場所	演題	配属	部署	科	氏名
10月11日	第26回 日本慢性期医療学会	鹿児島県	臥床中のポジショニングに対するの 取り組みによる看護職の意識の変化	五日市	看護部	療養病棟看護科	竹岡美希
11月10日	第57回 日本薬学会・日本薬剤師会・日本 病院薬剤師会 中国四国支部学術大会	鳥取県	病院薬剤師の業務負担軽減を目的 としたパートナー制度の導入	五日市	技術部	臨床薬剤科	近藤麻衣
11月10日	第16回 日本神経理学療法学会学術大会	大阪府	IVESの段階的なモード変更により足 関節背屈不全の改善を図れた症例	五日市	技術部	リハビリ技術科	穴戸健一郎
11月22日	第34回 日本脳神経血管内治療学会総会	宮城県	当院の急性期血行再建術の治療成績	五日市	診療部	脳神経外科	梶原洋介
11月23日	第28回 日本医療薬学会年会	兵庫県	医師回診同行時における薬剤師によ る処方提案ならびに医師へのオー ダー支援の実態調査	五日市	技術部	臨床薬剤科	木本絵理華
11月29日	第59回 日本肺癌学会学術集会	東京都	緩和ケアにおける漢方薬の可能性	廿日市	診療部	外科	吉屋智晴

【地方】

開催日	学会名	発表場所	演題	配属	部署	科	氏名
4月21日	第5回 中四国スクリーニングCTC研究会	山口県	HOW TO START 撮影編	五日市	技術部	画像診断技術科	竹本幸平
8月18日	第32回 中国地方脳神経外科手術研究会	山口県	IC-Cavernous AN 2例の治療経験 ～Highglow bypass 作成時のpitfallを中心に～	五日市	診療部	脳神経外科	坪井俊之
9月1日	日本超音波医学会 第54回 中国地方会学術集会	広島県	拡張機能・2Dスペックルトラッキ ング法にて鑑別できたアスリート心と 思われる肥大型心筋症の1例	五日市	診療部	循環器内科	湯谷 剛
9月8日	第32回 中国ブロック理学療法士学会	鳥取県	重度の屈曲共同パターンを呈したが電気刺 激療法の併用により歩行を獲得できた症例	五日市	技術部	リハビリ技術科	伊藤拓也
9月8日	第32回 中国ブロック理学療法士学会	鳥取県	帰宅後の時間的余裕が良質な実習を 生み出す可能性	五日市	技術部	リハビリ技術科	穴戸健一郎
9月8日	第32回 中国ブロック理学療法士学会	広島県	ウォークエイドを用いた歩行練習を通し て、立位姿勢の安定化を認めた症例	廿日市	技術部	リハビリ技術科	前田貴志
9月8日	第32回 中国ブロック理学療法士学会	広島県	慢性期脳疾患患者に対し短時間の 歩行神経筋電気刺激を短期間実施 し歩行能力の改善を認めた症例	廿日市	技術部	リハビリ技術科	秦 彩佳
11月3日	第79回 九州山口薬学大会	大分県	院内メールを活用した薬剤師による 電子カルテの入力支援	五日市	技術部	臨床薬剤科	近藤麻衣
12月8日	第86回 日本脳神経外科学会中国四国支部会	愛媛県	合併症ZEROを目指した開頭クリッ ピング術における穿通枝剥離の工夫	五日市	診療部	脳神経外科	坪井俊之
12月15日	第23回 関西脳神経外科手術研究会	大阪府	Paraclinoid Aneurysm の外科治療にお ける CTA-FASE fusion image の有用性	五日市	診療部	脳神経外科	坪井俊之

【県内】

開催日	学会名	発表場所	演題	配属	部署	科	氏名
1月21日	第17回 広島県看護協会 廿日市市部看護研究発表会	広島県	胃切除により胃瘻増設困難な患者の経口摂取 に向けての看護～他職種との連携を通して～	廿日市	看護部	回復期 リハビリ病棟看護科	遠藤礼基
2月10日	広島県看護協会 広島西支部 看護研究発表会	広島県	周術期看護における業務改善について	五日市	看護部	外来看護科	大田成実
2月18日	第43回 広島県病院学会	広島県	閉塞性脳血管疾患罹患の有無と冠動 脈CTAによる冠動脈狭窄度との関係	五日市	技術部	画像診断技術科	藤田 哲
2月18日	第43回 広島県病院協会	広島県	ロボット技術を活用した患者サービ ス向上を目指して	五日市	事務部	庶務課	水野利弘
12月2日	第23回 広島県理学療法士学会	広島県	徘徊行動を繰り返す患者に対して行動分 析を行い、徘徊行動の改善を認めた症例	五日市	技術部	リハビリ技術科	葛西美波
12月2日	第23回 広島県理学療法士学会	広島県	トヨタ自動車(株)製歩行支援ロボット Welwalk(ウェルウォーク)導入支援	五日市	技術部	リハビリ技術科	大内田友規
12月2日	第23回 広島県理学療法士学会	広島県	病棟での短時間頻介入が機能回復 の促進と多職種との情報共有を円滑 にしADL向上に至った一症例	廿日市	技術部	リハビリ技術科	山崎智博

清風会 第20期及び社会医療法人第1期の 決算状況について

はじめに

当法人は、平成29年10月1日付けで広島県知事より「社会医療法人」の認定を受けました。認定の内容は五日市記念病院での「救急医療等確保事業に係る業務」、いわゆる「救急医療」です。「救急医療」での認定の要件は、「当該病院において時間外等加算割合が20%以上であること」であり、診療時間以外の時間や休日、深夜における初診患者の割合が、過去3年間の平均で20%以上であることとなっています。平成3年7月の開設以来、26年間に渡り佐伯区を中心に西区及び廿日市市の一部を診療圏とした、救急医療が評価された形となりました。

一昨年の社会医療法人の認定に伴って、「医療法人社団 清風会」としては平成29年7月1日～9月30日までの3ヶ月を第20期とし、「社会医療法人 清風会」としては平成29年10月1日から平成30年6月30日までの9ヶ月を第1期としてスタートしました。第20期と第1期を合わせた変則的なこの一年間については、五日市記念病院及び廿日市記念病院共に入院患者数が増えたことで医業収益が増加したものの、医業費用増加の影響もあって清風会連結の決算は当初の予想を下回る結果となりました。

■ 第20期（平成29年7月～9月）及び 社会医療法人第1期（平成29年10月～平成30年6月）の 決算状況について （五日市記念病院180床、廿日市記念病院126床）

（1）清風会全体の収入

医業収益（五日市記念病院及び廿日市記念病院の連結の医業収益）は、前期（第19期）に比べて10.0%増加しました。これを病院別に見てみると、急性期救急病院の五日市記念病院では12.3%増加し、総合リハビリ病院である廿日市記念病院では4.4%増加しました。直近の状況としましては、五日市記念病院は4年連続の増加となり、一方の廿日市記念病院は5年振りの増加となりました。

収入の状況について病院別にもう少し詳しく見てみ

ますと、五日市記念病院では血液内科の外来患者数が増加したことに伴い、外来収入が前期に比べ1.7%増加しました。また、入院収入については脳神経外科の手術が増えたことや、血液内科の患者数が増加したことに加え、回復期リハビリテーション病棟の患者数も増加したことで、前期に比べ17.4%増加しました。

一方、廿日市記念病院では外来患者数や診療単価の減少に伴い、外来収入が前期に比べ2.4%減少しました。入院収入については緩和ケア病棟や療養病棟の入院患者数が増加したことにより、前期に比べ4.2%増加しました。また、介護部門においても利用者数の増加に伴い、前期に比べ11.0%増加しました。

（2）清風会全体の支出

清風会全体の医業費用は、前期に比べ8.5%増加しました。これを病院別に見ますと、五日市記念病院では前期に比べ10.9%増加し、廿日市記念病院では2.7%増加しました。

費用項目別に見てみますと、材料費（医薬品費・医療材料費・給食材料費）は五日市記念病院において血液内科関連の医薬品費が増えた結果、前期に比べ38.2%増加しました。人件費については、職員の増員や業績連動型賞与の増額、働き方改革に伴う医師給与制度の見直しを実施したことにより、前期に比べ9.1%増加しました。

また、委託費については血液内科の検査件数が増えたことや、採用活動にかかる費用が増えたことなどにより、前期に比べ1.3%増加しました。経費については病院の土地建物の一部を法人所有としたことによる賃借料の削減や、経費節減に取り組んだ結果、前期に比べ17.5%減少しました。本部費については、外部監査費用の発生等により前期に比べ4.3%増加しました。

（3）清風会全体の支払後可処分所得（最終的に法人に残るお金）

五日市記念病院及び廿日市記念病院共に増収となったものの、材料費をはじめとする医業費用の増加により前年に比べて増収減益となりました。結果としましては、

清風会連結の支払後可処分所得の比率が3.9%と当初の予想を下回りましたが、支払後可処分所得の額面とし

ては想定した範囲内であり、まずまずの結果であったと思われます。

【この表は、医業収益を100とした構成比を表示しています】

(単位：%)

項 目	第19期 実績	第20期～第1期予想	第20期～第1期 実績			第2期 予想
	清風会	清風会	五田市記念病院 (一般病院)	廿日市記念病院 (療養型病院)	清風会	清風会
医業収益	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
医業費用	97.0	96.7	97.0	92.4	95.7	96.5
材料費	19.5	20.2	30.9	6.3	24.0	21.2
人件費	50.3	52.0	46.0	59.8	49.9	52.9
経費	11.9	9.8	7.8	12.0	8.9	9.2
委託費	5.4	5.4	4.7	5.6	5.0	5.1
減価償却費①	7.4	7.1	6.0	4.5	5.6	5.8
本部費	2.4	2.2	1.6	4.1	2.3	2.4
医業利益	3.0	3.3	3.0	7.6	4.3	3.5
医業外収益	2.4	2.1	1.5	1.7	1.5	2.2
医業外費用	2.8	2.4	2.1	2.7	2.3	2.2
経常利益②	2.7	2.9	2.3	6.6	3.5	3.4

可処分所得(③÷①+②-法人税等)	9.2	10.0	8.4	11.2	9.2	9.2
借入金及び割賦返済④	4.8	5.8	5.6	4.5	5.3	6.1
支払後可処分所得(③-④)	4.4	4.3	2.8	6.7	3.9	3.1

※1 会計処理は病院会計準則に準じています

※2 五田市記念病院及び廿日市記念病院は、医薬分業を実施しています

※3 本来人件費である清掃委託費は、委託費に含めています

※4 第2期の人件費予想は第20期～第1期の実績に比べ3.6%多く見積っています

社会医療法人第2期(平成30年7月～平成31年6月)の 収支予想について

社会医療法人の第2期も、良い医療を継続するため健全経営化に力を入れていきます。五田市記念病院では、社会医療法人の認定要件でもある救急医療に力を入れ、急性期から回復期及び医療療養に至る入院機能を充実させていきます。一方の廿日市記念病院では、従来通り緩和ケアを併設した総合リハビリ病院として、地域の医療機関との連携の強化を推進していきます。収入については入院患者数の確保に努め増収を見込んでおり、支出については医師の採用と一部の職員の増員による人件費の増加が見込まれます。加えて、医療機能の充実を図るための積極的な設備投資による減価償却費の増加が見込まれます。

法人連結の収支予想は、医業収益に対する支払後可処分所得の比率が+3.1%前後になる見込みです。

おわりに

一昨年の社会医療法人認定に伴い、第1期分の法人税と五田市記念病院の一部を除いた固定資産税が免除となりました。これらの免税分については法人運営の原資として内部留保や、賞与の増額、医療機能向上のための設備投資に使っていきたくと考えています。中小の民間病院を取り巻く経営環境は厳しい状況ですが、良い医療は良い経営から生まれるとの基本的な考えから、今後も積極的な法人運営を企画していきます。

「社会医療法人 清風会」は、五田市記念病院と廿日市記念病院を一体と考えた“清風会病院の概念”の下、地域に望まれる病院づくりを続けていきます。職員の皆さんの協力をお願いします。

新任のご挨拶

五日市記念病院

内科 たけうち 竹内 ありのり 有則

はじめまして。平成30年10月から五日市記念病院で内科医師として勤務しています。

平成23年に広島大学を卒業し、東広島医療センター、中国労災病院、広島市民病院、安佐市民病院にて、主に循環器内科を中心に診療してまいりました。もともと急性期、慢性期を問わず全身を診ることができる医師を目指していて、循環器内科を専攻した理由はそこにあります。

今まで急性期医療を行う病院に勤務してきましたが、自分の専門分野以外に関しては他の診療科に任せることが多く、内科医として総合力を高めたいという自分の希望と必ずしも一致しなかったことがありました。また、急性期治療を終えた患者さんは転院になる場合も多く、最期まで経過をみられないことが残念なこともよくありました。

このたび五日市記念病院で勤務するにあたり、総合内科的な治療を実践し、急性期治療から慢性期療養まで幅広く診療する機会をいただき、大変光栄に思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



五日市記念病院

事務部長 あおき 青木 あきお 昭雄

昨年7月に清風会診療情報管理課に配属となり、本年より事務部長の大任を仰せつかり、寒さ増すなか身の引き締まる思い(体重は減りませんが…)の青木昭雄です。名前をカタカナで書くと「アオキアキオ」となり、紛らわしいのですが、覚えやすいと思います。

出身地は、2016年冬にアニメ映画化され、2018年夏に連続ドラマ化された「この世界の片隅に」の舞台となった呉市で、当家の畑が舞台となり撮影にも来られたそうです。(主人公の嫁ぎ先の家は、数年前に取り壊されています)

法人理念の「社会に望まれる医療」を実現させるため、経営状況を発展させ、「清風会」に新しい風が吹くよう鋭意努力して参りますが、21年勤めた行政から4年前に医療業界に転身したばかりで、まだまだ未熟な点が多くご迷惑をお掛けすることも多いかと存じますが、皆様方のご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いいたします。



「この世界の片隅に」の舞台となった実家の畑からの風景



動物と触れ合って、生活の質の向上へ

アニマルセラピー



2017年12月より、当院ではアニマルセラピーを開始しております。アニマルセラピーとは、動物と触れ合うことで精神的・身体的に機能を向上させることにより、生活の質を向上させる療法のことを言います。動物との触れ合いは安らぎや癒やしを与えてくれます。この動物が持つ癒やしの力を借りて、心身を健康に導くのがアニマルセラピーと言われています。

当院では、毎月第3土曜日の10時から11時までの1時間、リハビリルームにて開催しており、NPO法人アニマルセラピー協会から毎回4～6匹、様々な犬種の小型犬や大型犬に来ていただいております。抱っこや、なでることで毛触りや温かみを感じられる触れあいや、夏には浴衣、冬にはサンタクロースの衣装を着たセラピードッグとの記念撮影、お水やおやつをあげる、季節のゲームや歌など、毎回盛りだくさんのプロ

グラムを実施してもらっています。患者さんだけでなく、医師や看護師、介護師やセラピストなど参加者全員で楽しみ癒やされながら行っています。

なかなか発話が難しい患者さんがセラピードッグの名前を呼んだり、だっこして記念撮影をされる場面では、患者さんみなさんが自然な笑顔となり、温かな雰囲気の中で時間が過ぎていきます。またセラピードッグをいたわりながら声をかけたり、昔飼っていた犬のことを話されたりなど、普段の病棟生活や関わりの中ではなかなか見られない場面が多くあります。

歩行器や車椅子を使用している患者さんだけでなく、ベッドから離れるのが難しければベッドごとリハビリルームへ移動し参加される患者さんもうらやいます。またご家族と一緒に参加されている患者さんもうらやいます。ご家族と一緒にセラピードッグと触れあったり記念撮影をしたりすることで、ご本人だけでなくご家族にとっても思い出となるイベントとなっています。

セラピードッグは基本的なしつけがされている、人が大好きな犬たちです。動物が苦手という患者さんも遠くから見学されていますので、回復期・療養・緩和ケア病棟にご入院中の方で興味が少しでもございましたら、ぜひ参加や見学をしてみたいかがでしょうか。お待ちしております。



廿日市記念病院 地域医療連携室からのご紹介

第9回 廿日市記念病院 緩和ケア病棟 オープンホスピス

2018年10月7日～13日のホスピス緩和ケア週間、10月13日の世界ホスピス緩和ケアデーに合わせて、10月13日(土)にオープンホスピスを開催しました。

当日は、9名の方に参加して頂きました。

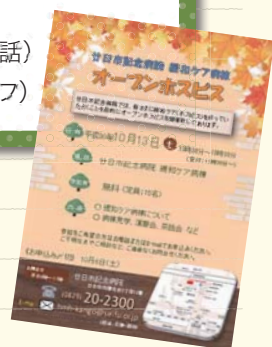
内容は、緩和ケア病棟施設長からの緩和ケアについての説明、病棟見学や大正琴の演奏会、参加者からの話を伺う茶話会などを実施。緩和ケア病棟の事を知って頂き、少しは身近に感じてもらえたのではないのでしょうか。

また、以前、入院されていたご家族と飼い犬も飛び入り参加し、とても和やかな時間となりました。

今年も開催予定です。どなたでも参加出来ますので、機会があれば、是非ご参加下さい。

オープンホスピス プログラム

- 13:00 受付開始
- 13:30 開会の挨拶(病棟スタッフ)
- 13:40 緩和ケアについて(病棟施設長)
- 14:10 病棟見学
- 14:40 演奏会
- 15:10 茶話会(ご家族からのお話)
- 15:30 閉会の挨拶(病棟スタッフ)



地域医療連携室も 資料を掲示！

私(MSW朝原)も参加しました。
緩和ケア病棟の見学をご希望の場合は、
地域医療連携室へお問い合わせ下さい。



五日市記念病院

連絡先(代表) TEL:082-924-2211 FAX:082-924-8111 e-mail:msw@seifu.net
(直通) TEL:082-924-2343 FAX:082-924-2215

廿日市記念病院

連絡先(代表) TEL:0829-20-2300 FAX:0829-20-2301 e-mail:msw@seifu.or.jp
(直通) TEL:0829-20-2777 FAX:0829-20-2777

診療担当 医師の ご紹介

五日市記念病院

脳神経外科

院長 向田一敏(昭和54年広島大学卒)
副院長 茶木隆寛(昭和58年愛媛大学卒)
診療部長 坪井俊之(平成9年宮崎医科大学卒)
技術部長 梶原洋介(平成13年広島大学卒)
理事長 梶原四郎(昭和47年広島大学卒)
光原崇文(平成13年広島大学卒)※

内科

副院長・科長 土井謙司(昭和53年岡山大学卒)
ドック科長 印具 誠(昭和57年自治医科大学卒)
藤田順子(昭和63年藤田保健衛生大学卒)
黒木ゆり(昭和56年広島大学卒)
竹内有則(平成23年広島大学卒)
瀬山敏雄(昭和50年広島大学卒)※

外科

高橋 信(昭和46年広島大学卒)

循環器内科

科長 湯谷 剛(平成2年愛媛大学卒)
免出 朗(平成11年山梨医科大学卒)
林 康彦(昭和47年広島大学卒)※

血液内科

副院長・科長 許 泰一(昭和52年広島大学卒)
福島伯泰(平成6年佐賀医科大学卒)※
名越久朗(平成15年広島大学卒)※

廿日市記念病院

脳神経外科

院長 浅野 拓(昭和48年岡山大学卒)
高柿尚始(平成14年広島大学卒)
理事長 梶原四郎(昭和47年広島大学卒)

内科

科長 横矢 仁(昭和48年広島大学卒)
益田智子(平成16年広島大学卒)※

外科

副院長 番匠谷孝廣(昭和51年広島大学卒)
緩和ケア施設長
吉屋智晴(平成14年広島大学卒)
高橋 元(平成20年広島大学卒)

循環器内科

免出 朗(平成11年山梨医科大学卒)

呼吸器内科

中川三沙(平成15年広島大学卒)※
三浦慎一郎(平成23年広島大学卒)※

※印:非常勤医師
(平成31年1月1日現在)

五日市記念病院

脳・血管ドックのご案内

ドックコース

- A 脳ドック……………40,000円
- B 簡易脳ドック……………25,000円
- C 血管ドック……………65,000円
- D 簡易血管ドック……………55,000円
- E 脳+血管ドック……………80,000円

オプション

肺癌検診(肺CT検査)……………8,000円
内臓脂肪測定(CTによる)……………2,000円

- 脳ドックは、毎週木・金曜日となります。
- 血管ドックは毎週木曜日に実施致します。
血管ドックには、肺癌検診(肺CT検査)が含まれます。
なお、複数回の来院が必要となります。

社会医療法人 清風会

五日市記念病院

日本脳ドック学会認定施設

〒731-5156 広島市佐伯区倉重1-95

ドックについての
お申し込み・お問い合わせは

TEL

082-924-2211

検査項目	脳ドック		血管ドック		脳+血管ドック
	A	B	C	D	E
身長・体重・血圧・腹囲	○	○	○	○	○
視力	○	○	○	○	○
聴力	○		○		○
頭部MRI	○	○			○
頭部MRA	○	○			○
頸部MRA	○	○			○
冠動脈CTA			○	○	○
体幹部CT			○	○	○
体幹部CTA			○	○	○
血液検査・尿検査	○		○	△※	○
便潜血	○		○		○
心電図	○		○	○	○
胸部X線	○		○	○	○
骨密度測定	○		○		○
脈波図			○	○	○
眼底検査	○		○		○
頸動脈エコー	○	○	○	○	○
長谷川式簡易知能評価	○	○			○
内臓脂肪測定(CTによる)	○		○		○
肺癌検診(肺CT検査)			○	○	○

※△:採血によるクレアチニン検査のみ

五日市 記念病院 のご案内

脳神経外科を中心に
全身管理のできる急性期救急病院

所在地 広島市佐伯区倉重1-95 TEL:082-924-2211

診療科目 脳神経外科、内科、外科、循環器内科、血液内科、リハビリテーション科、脳ドック・血管ドック

総病床数 180床(一般病棟60床、回復期リハビリ病棟80床、療養病棟40床)

外来診療時間 午前9時～午後1時(受付時間:午前8時30分～午後12時30分)
午後2時30分～午後5時30分(受付時間:午後2時～午後5時)

休診日 土曜日午後・日曜日・祝日、8月15日、年末年始(12/29～1/3)

● 外来診療スケジュール並びに担当医師

(平成31年1月1日現在)

		脳外科 (初診)	脳外科 (再診)	内科	内科	血液 内科	循環器 内科	循環器 内科	外科	脳 ドック	血管 ドック
月曜	午前	向田	坪井	梶原(洋)	竹内	藤田	許	湯谷	高橋		
	午後					印具	許				
火曜	午前	坪井	向田	梶原(洋)	黒木	印具	許	湯谷	林		林
	午後					藤田	許				
水曜	午前	交替制	茶木	梶原(四)	土井	印具	許	免出	高橋		
	午後					黒木	許			梶原(四)	
木曜	午前	梶原(洋)	向田	茶木	黒木	土井	許・名越	免出		検査日	検査日
	午後					藤田	許				
金曜	午前	茶木	向田	梶原(四)※	黒木	藤田	許	湯谷	高橋	検査日	
	午後		第1・3光原			竹内	許				
土曜	午前	第2・4・5光原 第1・3交替制	交替制	第2・4・5 梶原(四)	瀬山	交替制	許 交替制				

※第3土曜日前日の金曜は休診

脳外科初診外来



アクセス

- 自家用車** 患者様用駐車場95台
JR五日市駅より10分
- 公共交通機関**
- JR五日市駅北口よりバス
(薬師が丘、彩が丘団地、藤の木団地行き)
地毛(じげ)バス停下車、徒歩5分
 - 広島電鉄楽々園駅よりバス(湯来温泉行き)
地毛(じげ)バス停下車、徒歩5分
 - 広島バスセンターよりバス(四季が丘、阿品台行き)
波出石(はでいし)バス停下車、徒歩3分
 - 広島バスセンターよりバス
(東観音台、薬師が丘、彩が丘団地、藤の木団地行き)
地毛(じげ)バス停下車、徒歩5分

廿日市 記念病院 のご案内

心を重視したホスピスと
総合リハビリテーション病院

所在地 廿日市市陽光台5-12 TEL:0829-20-2300

診療科目 脳神経外科、内科、外科、循環器内科、呼吸器内科、リハビリテーション科

総病床数 126床(回復期リハビリ病棟60床、療養病棟42床、緩和ケア病棟24床)

外来診療時間 午前9時～午後1時(受付時間:午前8時30分～午後12時30分)

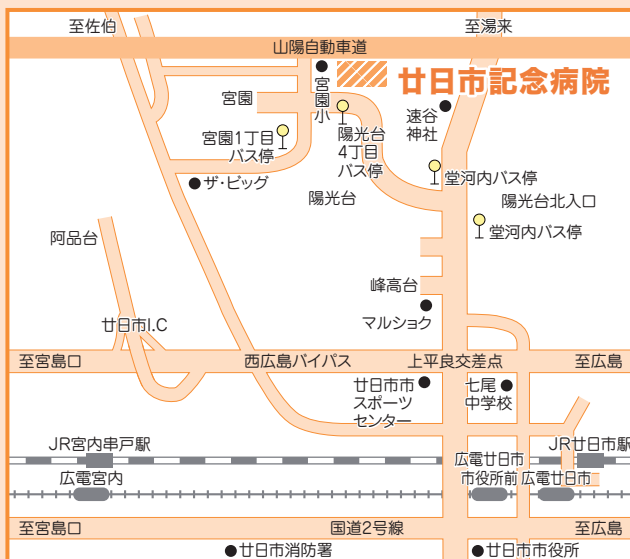
休診日 土曜日・日曜日・祝日、8月15日、年末年始(12/29～1/3)

●外来診療スケジュール並びに担当医師

(平成31年1月1日現在)

		脳神経外科	内 科	呼吸器内科	循環器内科	緩和ケア
月 曜	午 前	梶 原※	横 矢	中 川		
火 曜	午 前	浅 野	益 田		免 出	
水 曜	午 前	浅 野	横 矢			番 匠 谷
木 曜	午 前	梶 原※				高 橋
金 曜	午 前	浅 野	横 矢	三 浦		
土 曜	午 前					

※月・木曜日の脳神経外科の診察は、9時30分から。



アクセス

- 自家用車** 患者様用駐車場62台
JR宮内串戸駅または広電宮内駅より10分
- 公共交通機関**
- JR宮内串戸駅または広電宮内駅よりバスで宮園1丁目バス停下車、徒歩4分(宮園、四季が丘行き)
 - 広電廿日市市役所前駅よりバスで堂河内バス停下車、徒歩5分(原、川末行き)
 - 広電廿日市市役所前駅よりさくらバス(西循環)で陽光台4丁目バス停下車すぐ

法人の理念

私たちは『医療は仁術』であり、
『病院はサービス業』であることを忘れず、
『社会に望まれる医療』の実現を目指して、
より良質で、温かく心の通った医療を提供します。

- ☐ 私たちは、患者さまを守ります
- ☐ 私たちは、思いやりを大切にします
- ☐ 私たちは、誠実な医療を目指します
- ☐ 患者さまには人格の尊重を、
病気に対しては厳しい目をもって
より良い医療を目指します

年間行事

2018年(平成30年)9月～2019年(平成31年)1月

9月	22日	職員互助会 野球観戦(マツダ ズームズームスタジアム)
	29～30日	4年目研修(淡路・鳴門)
10月	27日	職員互助会 ボーリング&バイキング
12月	8日	忘年会(グランドプリンスホテル広島)
	14日	冬季賞与 支給
1月	31日～3日	佐伯区医師会 定点診療(広島市年末年始救急医療協力病院)

編集後記

本誌「清風」に掲載する写真を、全職員対象に「清風 写真コンテスト」として、募集しています。

今回は、その中から2点程紹介致します。

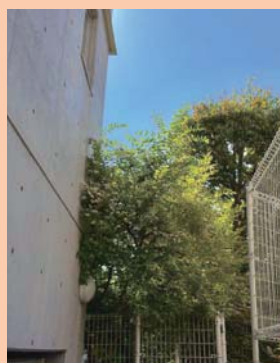
1点目は、新館と本館の地下を通る里道。近代的なコンクリートの打ちっぱなしと光差し込む緑が調和して、心和むスポットとなっています。

2点目は、広島市立大学の学生さんが作られた「芸術奨励作品展」のケースに反射した紅葉が目にとまり、撮影した写真だそうです。普段何気ない所にも、そこには絵があり物語があります。

どんな時も心に余裕を持ち、色々なことに気付く力が大切ですね。

引き続き募集中ですので、この場を借りてお知らせ致します。(casting)

「清風 写真コンテスト」ギャラリー



五日市記念病院
内科 黒木 ゆり



五日市記念病院
庶務課 中川 泰夫

社会医療法人
清風会

第62号 2019年1月1日

管理本部

〒731-5156 広島市佐伯区倉重1-95
TEL (082)943-7725
FAX (082)921-0104
URL <http://www.seifu.or.jp>
E-mail kannri@seifu.net

五日市記念病院

TEL (082)924-2211
FAX (082)924-8111
E-mail imh@seifu.net

廿日市記念病院

TEL (0829)20-2300
FAX (0829)20-2301
E-mail hmh@seifu.or.jp